■今月の特選句

2014年7月号

大奥に不穏な空気冷蔵庫　小林英昭

「封切りの鮭缶に黴生えたかも」「韓国製の本格キムチ」「シュールストレミングてふチーズか」。賞味期限を確かめるために、衰えた目と嗅覚を駆使。

蚯蚓出て五分の魂一寸に　永島董玉

「魂は等身大一寸の蚯蚓なら」「伸び縮みする魂はゴム製か」「蚯蚓腫れ運動会に転倒し」。以前に作った拙句、「文字通り丘を引きずる蚯蚓かな」。

息切れの譲り合ひなり登山道　有冨洋二

「譲った人にすぐ追い抜かれ」「お上りさんは田舎者なり」「抜きつ抜かれつ山頂目指す」「道譲りメモに俳句をしたためたる」。

虹二重三角関係に悩む神　高橋きのこ

「神にもあるや人間臭さ」「宇宙規模てふ大スキャンダル」「時が解決虹は失せたり」。津田の清子も詠みたる俳句、「虹二重神も恋愛したまへり」。

缶ビール飲んでぐしゃりと今日を捨て　西をさむ

「飲んでぐにゃりと睡魔に任せ」「羊数える苦労もなくて」「明日の苦労を知るよしもなし」「明日は明日の風が吹くらむ」。

軽すぎる悩みに跳ねて水馬　久松久子

「贅沢だろうそんな悩みは」「ダイエット術教えてくれよ」「飽食の文字無いらしい水馬」「おそらくは甘えん坊だ水馬は」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

ほとんどは空気なり桑の実の袋　三橋百笑
・・・空気にゃ重さ無いから許せ

未来児の敵と奮闘武者人形　山下正純
・・・まさかのためにまさかり担ぐ

静かさや岩に転がる蝉鳴かず　粟倉健二
・・・死ぬ前に声岩に染ませて

家康の待つまでもなく時鳥　伊地知寛
・・・今の宰相性急な人

ドラマの携帯音にジャケツ探る　高橋素子
・・・視聴者いつも騙される役

好きな風来れば尾を振り鯉のぼり　麻生やよひ
・・・真鯉緋鯉で異なる風か

父の日や今年も忘れそうになり　高橋マキコ
・・・毎度のことに父の諦観

手つかずの全集紙魚に乗っ取られ　横山喜三郎
・・・紙ゴミ集めの軽トラが来る

地下鉄の無賃乗車のやぶ蚊かな　入江澄泉
・・・藪蚊のためのスイカ作らむ

ボーナスの字は避けて読む年金者　田中早苗
・・・値上げの文字や物価の文字も

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

離縁され淋しからうに竹婦人　氏家頼一
・・・入籍せぬは承知の縁と

鯉のぼり風はＳ字に吹いてをり　久我正明
・・・「Ｉ」の字になる無風のときは

若鮎のファイト一発魚道越ゆ　壽命秀次
・・・朝鮮ニンジンエキス飲んだか

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	羽抜鳥男の背（そびら）孤独かな	青木輝子
	うつうつと卯の花腐し日もすがら	青木輝子
【佳作】	半夏生不定愁訴更年期	青木輝子
	麦秋やパッチワークの中にあり	青山桂一
	夫婦には固め縄なり夏至祭	青山桂一
【佳作】	妖しきは白き肢体の麦の稈（くき）	青山桂一
【佳作】	ストーカーまがい蝶追ひ遂に捕えたり	秋月裕子
	島国は危険か気楽かはたた神	秋月裕子
	梅雨と黴恐れず育つ野菜かな	秋月裕子
【佳作】	八つ当たり贔屓チームの負けナイター	麻生やよひ
	捨てるとき菖蒲湯の葉のずつしりと	麻生やよひ
【佳作】	空の旅飛魚焼いて出されをり	有冨洋二
	古水着たまりて腹に脂肪たまる	有冨洋二
	初かつを禁酒の刑に服しをり	有吉堅二
	おしやべりのぴたりと止みて蟹料理	有吉堅二
【佳作】	美男美女に縁なき家系業平忌	有吉堅二
【佳作】	滝の水魚も一緒に落ちるらん	粟倉健二
	雷真似たおれおれ詐欺かジェット呼ぶ	粟倉健二
	水着よりはみ出してゐる無駄毛かな	飯塚ひろし
	天瓜粉女児の凹みへ打ちにけり	飯塚ひろし
【佳作】	道問へば鎌にて示す草刈女	飯塚ひろし
	坊さんの説法聞き入るぼうたんよ	井口夏子
	振込み詐欺許すものかとはたた神	井口夏子
【佳作】	箸使ひ多めに使ひ烏賊さうめん	井口夏子
【佳作】	八は寒山熊は拾得浮世風呂	池田亮二
	塵外に遊ぶといいつ縄暖簾	池田亮二
【佳作】	一仕事小分けしてシャワー浴びており	石川セツコ
	送り出す笑顔くるりと缶ビール	石川セツコ
	百歳まで生きるつもりや宿浴衣	板倉肱泉
【佳作】	紫陽花の七色に黒なかりけり	板倉肱泉
	紫陽花の雨に色増す池もまた	板倉肱泉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	がまがえる裏の家業は薬売	伊地知寛
【佳作】	年金の妻の豪華な夏休	伊地知寛
	蝦蟇と蛇あと児雷也を待つばかり	伊藤浩睦
	本当は聞こえています鑑真忌	伊藤浩睦
【佳作】	蝙蝠が食べても食べても蚊の減らず	伊藤浩睦
	毛虫には毛虫の勝手跨ぐなり	稲沢進一
	沢蟹の大き夢あり道塞ぐ	稲沢進一
【佳作】	ふるさとや自動改札ばつた飛ぶ	稲沢進一
【佳作】	夏暖簾レースのすき間垣間見る	井野ひろみ
	冷奴値のはる分の旨き味	井野ひろみ
	夏蒲団敷いて寝る子や大の字に	井野ひろみ
	歯並びの踊る笑顔の入学児	入江澄泉
【佳作】	地震ありて寝間のふたりの夜の朧	入江澄泉
【佳作】	食道をスライダーにして心太	上山美穂
	悪戯な子犬の鼻を蟹はさむ	上山美穂
	売ることに手間取つてゐるラムネ売	上山美穂
	天の川どぜう掬ひのうまい人	氏家頼一
【佳作】	空蝉を剥がさんとしてよろめけり	氏家頼一
	メロンの香網目の服を脱がずとも	梅岡菊子
	妖精の鍵盤叩く聖五月	梅岡菊子
【佳作】	これなんじゃなんじゃもんじゃの花なんじゃ	梅岡菊子
	饒舌は弱者の性か生ビール	越前春生
	ダービーや外れ続けて五十年	越前春生
【佳作】	水羊羹切っても切れぬ俳句縁	越前春生
	菖蒲田にパートの人の赤だすき	奥脇弘久
【佳作】	降り止まず梅雨入り宣言祝すかに	奥脇弘久
	荒梅雨のニュースの後に「ごきげんよう」	奥脇弘久
	胸元を盗む目線や更衣	笠　政人
【佳作】	青葉風ゆーらりゆらり手長猿	笠　政人
	梅雨晴の雀チュンチュン鳩クククク	笠　政人
	羅やママははんなり嘘をつく	加藤　賢
【佳作】	相応に痩せたり父の日の毛臑	加藤　賢

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	酔つぱらふこと思はざり暑気払	加藤　賢
【佳作】	翡翠や縄張り争う堀の内	門屋　定
	乾門青葉若葉の風の道	門屋　定
	柏餅母より妻と五十年	門屋　定
	人類は水より生まる梅雨はげし	金澤　健
【佳作】	ででむしやホームレスとはなりきれず	金澤　健
	葬列の人の頭上の鳥の恋	金澤　健
【佳作】	しわしわの身を菖蒲湯に浮かせをり	川島智子
	時の日や日・水・砂に花時計	川島智子
	時の日や時代遅れのメカ音痴	川島智子
	明易や光明遅き二日酔	菅野あたる
【佳作】	更衣娘のお古着て妻若し	菅野あたる
	短夜の朝に間のある目覚めかな	菅野あたる
【佳作】	黒猫は黴といふ字に隠れたり	久我正明
	夕食も朝食もまた豆ごはん	久我正明
【佳作】	更衣ボタンもチャックも開け易し	黒田忠一
	母の日や巻いても巻いても余る帯	黒田忠一
【佳作】	自転車に追い抜かれしバス街薄暑	小泉花子
	掌に受けて威風堂々枇杷の種	小泉花子
	老犬に片足上げられ葱坊主	小泉花子
【佳作】	まくなぎの大歓迎にあふ駅頭	小林英昭
	焼酎に顔のパーツが胡座かく	小林英昭
	中国てふやんま縄ばり限りなく	酒井鹿洋
【佳作】	南海に今こそ放て水すまし	酒井鹿洋
	地球をば見限る人間天高し	酒井鹿洋
	腰痛に笑いころげて腰かばう	佐藤義子
	金魚さん孫声はずむエサやりよ	佐藤義子
【佳作】	いつ食べる固いメロンを眺めつつ	佐藤義子
	麦の秋道の草ども秀を競ふ	佐野萬里子
	血の紅葉偲ぶ木漏日青もみぢ	佐野萬里子
【佳作】	選者たちの目にはとまらず梅雨入せり	佐野萬里子
	梅雨晴間かっとひらめく十七音	下嶋四万歩

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	母の日の母は俄かに母の顔	下嶋四万歩
【佳作】	真直ぐに育ちがたしよ子と胡瓜	下嶋四万歩
【佳作】	育メンの威風堂々日傘かな	壽命秀次
	竹の子の姫さがすかに入れる掘り	壽命秀次
	死んだふりしてごきぶりの仰向けに	白井道義
【佳作】	要領の良きも悪しきもつばめの子	白井道義
	田植機に初心者マーク跡を継ぐ	白井道義
【佳作】	紫陽花よ何が有っても丸でいて	鈴木和枝
	怒ってんの威張ってんの頭上の鳥	鈴木和枝
	病院の紫陽花咲かせたのは誰	鈴木和枝
【佳作】	焼きぶたともやしをゆでて冷しめん	鈴木哲也
	髪洗ひ身支度出来て電車乗り	鈴木哲也
	夏座敷参考書読みすぐあたり	鈴木哲也
【佳作】	閑古鳥鳴いて客来る峠茶屋	髙田敏男
	ワンシーン柴犬も出て村芝居	髙田敏男
	硝煙が匂う二人や花火散る	髙田敏男
	両足は摩天楼より虹の立つ	高橋きのこ
【佳作】	耳朶に香水二滴勝負日か	高橋きのこ
【佳作】	虫よけ当番女子校の夏の窓	高橋マキコ
	母の日を祝う幸せありがとう	高橋マキコ
【佳作】	夏来る着脹れなどと誤魔化せぬ	高橋素子
	ゴキブリや硼酸団子に目がなくて	高橋素子
	尼寺のひときは光る柿若葉	田中章子
【佳作】	睡蓮の知らぬ夢見るバレリーナ	田中章子
	鈴蘭の帽子をかぶる小人さん	田中章子
【佳作】	美観地区を吟行する立夏かな	田中　勇
	静岡の懐かしくなる新茶かな	田中　勇
	ぎしぎしのはななんでかいとしげなる	田中　勇
【佳作】	真央チャンも及ばざりしよあめんぼう	田中早苗
	袈裟斬りにされてメタボの筍は	田中早苗
	庭覗き鉄砲百合に威嚇さる	田村米生
	水鉄砲赤き絵の具の水が弾（たま）	田村米生

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	百円の香水男振り向かす	田村米生
	蟻の列去年と同じ道たどり	津田このみ
	春愁や贔屓チームの連敗す	津田このみ
【佳作】	弁当の主役になれぬミニトマト	津田このみ
	麦秋やじんじんじんとヘルニアは	土屋泰山
	入梅や目を三角にして教生は	土屋泰山
【佳作】	卒業生缶ビール抱へやってくる	土屋泰山
	牡丹に傘奪われて傘買いに	都吐夢
	還暦の娘船頭夏柳	都吐夢
【佳作】	素堂とは初鰹販促仕掛人	都吐夢
	父の日や一枚も無きツーショット	飛田正勝
【佳作】	五十年小競り合ひしてこどもの日	飛田正勝
	断りもならぬ今年の暑さかな	飛田正勝
【佳作】	夏痩せを知らぬ漢（おとこ）の嘆きかな	永島董玉
	大神輿にぎりめしをば頬張りて	永島董玉
	ぼくブルー君はすっきりソーダ水	西をさむ
【佳作】	ソフトクリームちょっと話は後にして	西をさむ
【佳作】	てんと虫背負う惑星小宇宙	花岡直樹
	ハンカチーフ木綿でなくとも涙拭き	花岡直樹
	いかづちはボレロラストのドラに似て	花岡直樹
	賞味期限一日過ぎたり柏餅	原田　曄
	濡れ衣は着せらるるもの更衣	原田　曄
【佳作】	金亀虫死にし振りして死んでをり	原田　曄
【佳作】	繋がれし犬を尻目に恋の猫	ひがし愛
	ひらがなを児に褒めらるるこどもの日	ひがし愛
	母の日や卒寿の母が用増やす	ひがし愛
	山椒煮る匂ひ近所にくばりけり	久松久子
【佳作】	西瓜あはれ唐丸籠に引き回し	久松久子
【佳作】	真白な夏雲にある嘘つぽさ	日根野聖子
	のびのびと育ち胡瓜の規格外	日根野聖子
	奈落まで落ちさうになり昼寝覚	日根野聖子
	早乙女に牛借りに来る文化財	藤岡蒼樹

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	反転に倍加離岸の卯月波	藤岡蒼樹
【佳作】	勢ひたる童ちんこは噴水に	藤岡蒼樹
	葉桜の向こうに白き燧灘	藤原セツ子
【佳作】	木漏れ日を影絵としたる日傘かな	藤原セツ子
	子ツバメの明日は巣立か道後の湯	藤原セツ子
	夕焼の色や樹林のひと所	松井寿子
	香のものを漬け合はせたる初鰹	松井寿子
【佳作】	猫たちは草葉に隠れ梅雨の雷	松井寿子
	集められ並ばされ鯉のぼりの兵隊	松井まさし
	風呂上り諸肌脱ぐさま五月富士	松井まさし
【佳作】	酸性雨すこし錆びたる五月富士	松井まさし
	一突にいつまでまつや心太	松尾軍治
【佳作】	菖蒲風呂土の匂ひの男風呂	松尾軍治
	池田屋の柱の傷や子供の日	松尾軍治
	中露寄る同床異夢の夏夜かな	丸山紘一
	老い二人憂き世も確と梅雨の入り	丸山紘一
【佳作】	自衛権行方の見えぬ夏の霧	丸山紘一
	どうしやうドクダミ綺麗に咲きそろひ	三橋百笑
【佳作】	生足の並びバス停初夏の風	三橋百笑
【佳作】	早苗持ち棚田に人の多過ぎる	宮森　輝
	夏草や刈られ礎石の数あらは	宮森　輝
	青田風すそはバリカン仕立てにて	宮森　輝
【佳作】	蛍闇不思議の国の扉開く	百千草
	斑猫の物知り貌に飛び立ちぬ	百千草
	物忘れうふふと流し薄暑かな	百千草
	雨垂れに腰を崩せし紅牡丹	森岡香代子
	大海を目指せと緋鯉カツを入れ	森岡香代子
【佳作】	思い出を畳み直して更衣	森岡香代子
【佳作】	爺たちで鰹のたたき初料理	森　要
	ラジオからぼやき川柳春の午後	森　要
	暑き海孔子なげくか狂界線	森　要
【佳作】	良薬は鼻に臭しと十薬も	八木　健
	存分に待たせて月下美人咲く	八木　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	しとやかに口に入れてもサクランボウ（乱暴）	八木　健
	晩酌はこれに限るぜ冷奴	八洲忙閑
【佳作】	水心以心伝心心太	八洲忙閑
	何故にまた五月の蝿のうるさかり	八洲忙閑
	蝿止まる窓際腐りどおしなり	柳　紅生
	夕薄暑妻が操る火の車	柳　紅生
【佳作】	蔵出しの枕絵紙魚の図に乗りて	柳　紅生
	狙う猫光センサー蝶とは知らず	柳澤京子
【佳作】	紫陽花の折紙並ぶ活性脳	柳澤京子
	笑うこと失せし泣き虫夏の汗	柳澤京子
【佳作】	泣かぬなら泣かせてみせう化け屋敷	山下正純
	ばらひとつひとつによさのひとつあり	山下正純
【佳作】	色褪せてしまひ鯉のぼりの夫婦	山本けい子
	世の中は憂きこと多し梅雨じめり	山本けい子
	目を閉じる香のよき薔薇を選ばむと	山本けい子
	潮干狩はやくおうちに帰りたい	山本　賜
	水やれば葉の匂ひ立つトマトかな	山本　賜
【佳作】	スーパーに旬のコーナー初鰹	山本　賜
	妖艶な花や乙女ら露天風呂	横山喜三郎
【佳作】	ロボットに介護されをり昼寝覚	横山喜三郎
【佳作】	余生なほ赤きシャツ着る更衣	渡辺さだを
	憂き気分晴るるや壺にバラ活けて	渡辺さだを
	天皇も素足となりて田植かな	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。